

■編集部【e-mail】cs-edit@wlpn.or.jp【TEL】03-5341-6957 ■購読課【e-mail】cs-read@wlpn.or.jp【TEL】03-5341-6958【FAX】03-5341-6960

■定期予約購読料・1部(税込、前払い)

紙代	送料	合計
●3か月…2,700円+	480円	3,180円
●6か月…5,400円+	960円	6,360円
●12か月…10,800円+	1,920円	12,720円

■海外・1部12か月(非課税、送・手数料含)

船便(各国共通)	16,464円
航空便(地域別)	18,960円~22,992円

※お申し込み・お問い合わせは上記購読課まで。
※便利な口座自動引き落としもご利用下さい。
いのちのことば社クリスチャン新聞
〒164-0001 東京都中野区中野2-1-5

◆THE CHRISTIAN◆

クリスチャン新聞

11/11 2012

http://jpnews.org

1部 225円(税込)

ゴスペルでお節介文化復活 子ども虐待防止を支援……8
超高齢社会に教会が福祉で仕える……2
グラハム氏モルモン容認?に釈明……2
大都市災害に他教会との連帯がカギ……5
人は神の似姿だから説明責任がある……7



震災で問われる福音

JEA宣教フォーラム 仙台で「支援と伝道」討議

日本福音同盟(JEA)宣教委員会(末松隆太郎委員長)は、09年に札幌で開催した第5回日本伝道会議から16年に神戸で予定している第6回日本伝道会議に向け、各地で宣教フォーラムを重ねているが、今年は東日本大震災の被災地域での支援活動に関わる中で日本宣教の根幹が問われている。10月29日、30日、宮城県仙台市青葉区の日基教団・仙台青葉教会を会場に「JEA宣教フォーラム・仙台」を開いた。震災で問われる「福音」を主題に、被災地教会の生の声と、包括的な宣教を目指す世界宣教の流れから、本質的な問題をあぶり出した。【根田祥一】

「教会に招く」から「出て行って交わりを」へ

2日間で3つのシンポジウムと生と福音の浸透、③世界被災教会、支援ネットワークで、①東北の教会と地域の教会ネットワーク、②東北の教会と地域の教会ネットワーク、③世界被災教会、支援ネットワークとして震災をどう受け止めるか、クによる動きをテーマに、地からの参加者と被災地をめぐる、②地域の再 岩手・宮城・福島各県の 牧師・信徒らが小グループで討議した(写真下)。



岩塚和男氏

20世紀以来の世界宣教運動の流れを概観し、「包括的福音」で焦点となる伝道と社会的責任の理解が東日本大震災被災地での経験とどう関わるかを論じた(②面に講演概要)。

シンポジウム①で岩塚和男氏(単立・宮古コミユニティーチャーチ牧師)は、「震災の直後に直感的に痛感したのは今までの考えが通用しない」ことだったと話した。被災者の立場に立たされてみて、「正しいことを主張しているが被災者の立場に立っていない、上を通り過ぎるような違和感」を感じてきた。教会の伝道はただ自己集団の拡張と改革者獲得を目指すべきではなく、世界全体の救いを目標とするものではないのか。従来のように伝道を教会の諸活動への招きとして教会中心に考えていたのでは、この世における教会の派遣のことにほかならない。

岩塚氏は感じていた。被災地教会の伝道は、教会の中心を改め、教会に招こうとするのではなく、外に向かって出て行って交わりを持つこと、出会った人たちが「教会に来たい」と言うようにならなければならない。岩塚氏は感じていた。被災地教会の伝道は、教会の中心を改め、教会に招こうとするのではなく、外に向かって出て行って交わりを持つこと、出会った人たちが「教会に来たい」と言うようにならなければならない。



そのような理解をもって長期的な活動を続ける中で、「教会や求道者を取り巻く環境、家族の理解といった宣教の土壌が変えられてきた」と岩塚氏は報告した。求道者が、以前は家族に反対され隠れて教会に来ていたのが、最近教会に来るようになった人は家族が喜んで送り出してくれる。

収穫はでっかいぞお!

支援教会の子ら 南三陸町で芋掘り

自分たちで掘った大きなお芋を手で得意顔の子どもたち。東日本大震災以来、宮城県利府町の日本バプテスト利府キリスト教会(オアシスチャペル(松田牧師))が支援を続けてきた同・南三陸町戸倉の住民から、「支援のお返しが少ない。よかったら子どもたちを芋掘りに連れて来ないか」と声をかけられ、10月29日に教会の子どもたちを連れて行った。同教会のボランティアグループ「オアシスライフ・ケア」では、夏休みには南三陸町子ども交流プログラムを実施。小学生の学習サポートと併せて、将来につながる絆を築こうと、両町の子ども同士の出会いを作ることも目指した。